

● 診療科の特色

小児外科では、新生児から中学生までの頸部、胸部、腹部、腎尿路、婦人科領域の外科的疾患を扱っている。小児外科指導医 2 名（常勤医 1 名、非常勤医 1 名）、小児外科専門医 4 名、小児泌尿器科認定医 2 名、小児がん認定外科医 1 名、腎移植認定医 1 名など各種専門資格を有する医師が在籍している。中四国地方で最も手術件数の多い施設であり、スタッフも充実している。小児外科救急疾患に関しては基本的に 24 時間、常時対応可能である。当院は総合周産期母子センターに指定されており、新生児外科疾患も数多く扱っている。近年では胎児診断症例も増えているため、出生前からの検査や管理、出産後の治療まで産婦人科、新生児科と連携して行っている。悪性固形腫瘍（神経芽腫、腎芽腫、肝芽腫、横紋筋肉腫、奇形腫など）の治療に関しては、小児科（血液腫瘍）と協力し、国内のスタディーグループのプロトコールに準じて行っており、良好な結果が得られている。また、小児泌尿器科分野の疾患治療も得意としており、小児外科と小児泌尿器科両方の知識と手術技術を必要とする総排泄遺残症、外反症、などの治療経験も豊富である。小児腎移植に関しては、生体腎、献腎移植のいずれにも対応しており、西日本の施設から患児をご紹介いただいている。

● 入院診療実績

1. 主要手術 年間手術件数 544 件

手術名	件数
鼠径ヘルニア	120
停留精巣	56
虫垂炎	32
膀胱尿管逆流	16
尿道下裂	15
腎移植	7
ヒルシュスプルング病・直腸肛門奇形	5
悪性固形腫瘍手術	3
胆道拡張症	2
腎盂形成	2

2. その他

a) 教育・研修

小児外科専門医を取得でき、また実力の伴った小児外科医を育てるべく、当院の外科、小児科、新生児科と連携した研修を行ってもらっている。研修施設に関してはNPO法人中国四国小児外科医療支援機構に所属する他施設（倉敷中央病院、島根大学付属病院、四国こどもとおとなの医療センター、山口県立総合医療センター）と連携を図っている。

b) 海外小児外科医療支援

国際ボランティア組織であるジャパンハートと協力し、2 ヶ月に 1 回程度、東南アジア（カンボジア、

ミャンマー)での医療活動を行っている。多くは小児がん手術もしくは複雑な小児外科疾患手術である。また、カンボジアの病院とは定期的に治療方針に関して、Web カンファレンスを行っている。

c) 低侵襲手術

膀胱尿管逆流症に対しては経尿道的 Deflux 注入療法を施行している。鏡視下手術は虫垂炎切除術、鼠径ヘルニア根治術、噴門形成術、腎盂形成術、脾臓摘出術、良性腫瘍摘出術、高位鎖肛根治術、ヒルシュスプルング病(long segment)根治術、肺切除術、胆道拡張症手術などに積極的に施行している。手術術式として従来の開腹、開胸手術の方が安全で、精度が高いと考えられる疾患もあるため、適応に関しては慎重に判断している。

小児外科ホームページ(<http://www.shonigeka.com/>)で当科の詳細を公開している。

● 研究業績

論文

- 1) Ukida A, Nakahara Y, Furujo M, Takada C, Hitomi K, Mukai W, Takahashi Y, Goto T, Aoyama K
Persistent urogenital sinus in siblings due to a maternal adrenal neoplasm: A case report
J Pediatr Surg Case Rep, 101, 2024, FEB
- 2) 中原 康雄, 高橋 雄介, 向井 亘, 人見 浩介, 浮田 明見, 高田 知佳, 後藤 隆文, 青山 興司
当院での総排泄腔遺残症の治療について
日本小児泌尿器科学会雑誌, 32, 1, 43-47, 2023 年 6 月 1 日
- 3) 向井 亘, 花木 祥二郎, 采原 隆志, 宮田 豪, 高田 知佳, 浮田 明見, 人見 浩介, 高橋 雄介, 中原 康雄, 後藤 隆文, 青山 興司
小児急性虫垂炎患者における切除虫垂内細菌培養と直腸部便細菌培養に関する検討 - 一般細菌培養検査でわかること -
小児外科, 55, 7, 746-750, 2023 年 7 月 25 日
- 4) 梶 祐貴, 中原 康雄, 高橋 雄介, 向井 亘, 人見 浩介, 浮田 明見, 高田 知佳
腹腔鏡下腫瘍摘出術を行った先天性臍嚢胞の 1 例
日本小児外科学会雑誌, 59, 7, 1101-1104, 2023 年 12 月 20 日

学会発表

- 1) 急激な過膨張による呼吸窮迫を呈した CPAM4 型の 2 例
人見 浩介
第 60 回日本小児外科学会学術集会 2023 年 6 月 1 日
- 2) 左上腕腫瘍として発症した軟部好酸球性肉芽腫症(木村病)の 1 例と当院小児例の検討
向井 亘
第 60 回日本小児外科学会学術集会 2023 年 6 月 2 日
- 3) 「おへそ」の治療と手術における「おへそ」の役割
向井 亘
第 26 回岡山小児医療研究会 2023 年 6 月 4 日
- 4) 小児期に腎移植後長期経過中に関節リウマチを発症した 1 例
高橋 雄介
第 58 回日本小児腎臓病学会学術集会 2023 年 6 月 30 日
- 5) ORBEYE を利用した腎盂形成術の経験
人見 浩介
第 32 回日本小児泌尿器科学会総会・学術集会 2023 年 7 月 21 日

- 6) 総排泄腔遺残症の腔再建
中原 康雄
第 32 回日本小児泌尿器科学会総会・学術集会 2023 年 7 月 21 日
- 7) 小児脳死ドナーからの腎単独摘出の経験
高橋 雄介
第 40 回中国四国臨床臓器移植研究会 2023 年 8 月 19 日
- 8) 膵・胆管合流異常が疑われた小児胆道穿孔の 1 例
向井 亘
第 46 回日本膵・胆管合流異常研究会 2023 年 9 月 9 日
- 9) 鉄吸収障害に難渋している総排泄腔外反症の一例
人見 浩介
第 62 回日本小児外科学会中国四国地方会 2023 年 9 月 16 日
- 10) 栄養療法で寛解を得られなかった SMA 症候群に対して腹腔鏡下十二指腸空腸吻合術を施行した 1 例
宮田 豪
第 62 回日本小児外科学会中国四国地方会 2023 年 9 月 16 日
- 11) 小児期に腎移植後長期経過中に関節リウマチを発症した 1 例
高橋 雄介
第 59 回日本移植学会総会 2023 年 9 月 22 日
- 12) SDH 欠損多発胃 GIST の診断となった小児の 1 例
高田知佳
第 65 回日本小児血液がん学会学術集会 2023 年 9 月 29 日
- 13) 直腸尿道瘻を伴う男児直腸肛門奇形に対する瘻孔処理法の検討
向井 亘
第 79 回直腸肛門奇形研究会 2023 年 10 月 27 日
- 14) A 型 long gap 食道閉鎖症に対する Collis-Nissen 変法の術後造影検査所見
中原 康雄
第 42 回日本小児内視鏡外科・手術手技研究会 2023 年 10 月 27 日
- 15) 当院における 20 年間の小児気道異物症例の検討
吉井 れの
第 75 回中国四国小児科学会 2023 年 10 月 28 日
- 16) 先天性十二指腸狭窄症 9 例の検討
浮田 明見
第 75 回中国四国小児科学会 2023 年 10 月 29 日
- 17) 当科における小児先行的献腎移植症例の検討
高橋 雄介
第 75 回日本小児科学会中国四国地方会 2023 年 10 月 29 日
- 18) 小児外科医育成における課題
中原 康雄
第 85 回日本臨床外科学会 2023 年 11 月 17 日
- 19) 分割式 S 状結腸人工肛門を造設した男児直腸肛門奇形 14 例のまとめ
向井 亘
第 85 回日本臨床外科学会 2023 年 11 月 18 日

- | | |
|---|------------------|
| 20) A 型食道閉鎖症に対する Collis-Nissen 変法
中原 康雄
第 85 回日本臨床外科学会 | 2023 年 11 月 18 日 |
| 21) 当科における小児先行的献腎移植症例の検討
高橋 雄介
第 44 回日本小児腎不全学会学術集会 | 2023 年 11 月 30 日 |
| 22) 卵巣粘液性腫瘍の 2 例
宮田 豪
第 96 回日本小児科学会岡山地方会 | 2023 年 12 月 3 日 |
| 23) 性別判定が困難で紹介となった新生児の 1 例
浮田 明見
第 337 回日本泌尿器科学会岡山地方会 | 2023 年 12 月 9 日 |
| 24) 胎児期・新生児期に診断された卵巣嚢腫症例に対する当科の対応について
向井 亘
第 37 回岡山新生児研究会 | 2024 年 2 月 2 日 |
| 25) 小児腎移植後早期の移植腎動脈吻合部血流評価に関する検討
高橋 雄介
第 57 回日本臨床腎移植学会総会 | 2024 年 2 月 14 日 |
| 26) 尿酸値異常を呈する VUR 症例の検討
中原 康雄
第 31 回日本逆流性腎症フォーラム学術集会 | 2024 年 2 月 17 日 |